

# 女性起業家の開業

～「2013年度新規開業実態調査（特別調査）」の結果から～

- I 調査目的と実施要領
- II 調査結果
  - 1 事業の概要
  - 2 開業者のプロフィール
  - 3 開業のプロセス
  - 4 経営スタイルと開業後の業績
  - 5 課題と支援策
- III まとめ

<問い合わせ先>  
日本政策金融公庫総合研究所  
小企業研究第一グループ  
TEL 03-3270-1687  
担当 藤井、金岡

# I 調査目的と実施要領

## 1 調査目的

日本政策金融公庫総合研究所では、新規開業の実態を把握するために、1991年から毎年「新規開業実態調査」を実施し、開業時の年齢や開業費用など時系列で比較可能なデータを蓄積すると同時に、様々なテーマで分析を行ってきた。

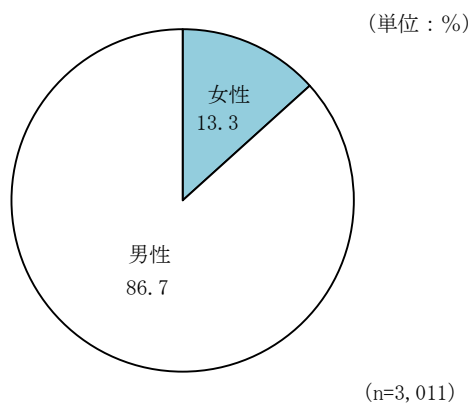
今年度は、少子高齢化が続くなかで経済活性化の鍵を握る存在として近年期待が高まっている女性の起業に着目し、調査対象を「開業後1年以内」から「同5年以内」に拡大した「新規開業実態調査」の特別調査として実施した。

## 2 実施要領

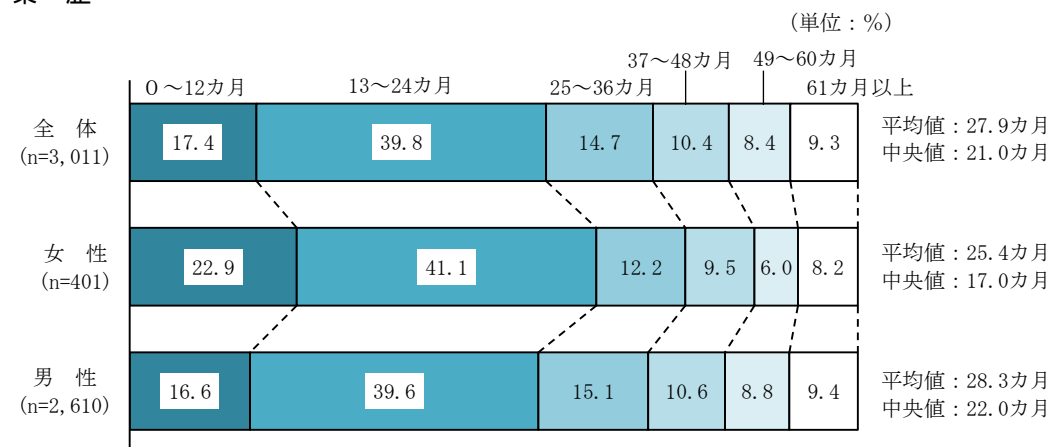
- (1) 調査時点 2013年8月
- (2) 調査対象 日本政策金融公庫国民生活事業および中小企業事業が2012年4月から2013年3月にかけて融資した企業のうち、融資時点で開業後5年以内の企業（開業前の企業も含む）1万2,813社
- (3) 調査方法 調査票の送付・回収ともに郵送、アンケートは無記名
- (4) 回収数 3,011社（回収率23.5%）

### 「2013年度新規開業実態調査(特別調査)」回答企業の概要

#### 開業者の性別



#### 業 歴



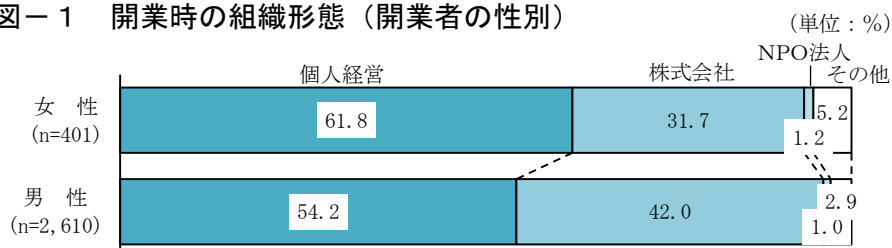
## II 調査結果

### 1 事業の概要

～女性起業家の4人に3人が一般消費者向けの事業を選択～

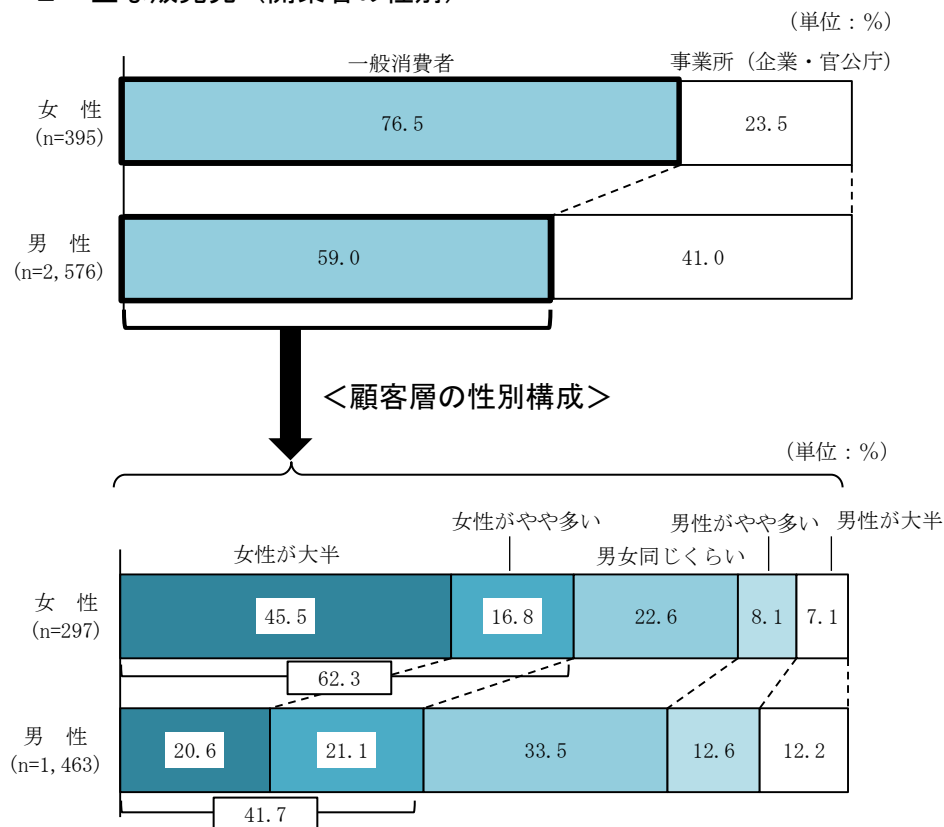
- 開業時の組織形態が「個人経営」だった割合は、女性起業家では61.8%と、男性起業家（54.2%）よりも高い（図－1）。
- 女性起業家の開業業種をみると、「個人向けサービス業」が25.2%と最も多く、「医療、福祉」（19.2%）、「飲食店、宿泊業」（15.0%）と続く（表－1）。一方、男性起業家では「医療、福祉」（13.0%）が最も多く、次いで「建設業」（11.9%）、「事業所向けサービス業」（11.6%）、「小売業」（11.6%）の順となっている。
- 「一般消費者」を主な販売先としている割合は、女性起業家は76.5%と、男性起業家（59.0%）よりも高い（図－2）。なかでも、女性消費者を主な販売先としている割合は、女性起業家（62.3%）のほうが男性起業家（41.7%）よりも高い。

図－1 開業時の組織形態（開業者の性別）



資料：日本政策金融公庫総合研究所「2013年度新規開業実態調査（特別調査）」（2013年）（以下同じ）

図－2 主な販売先（開業者の性別）



- (注) 1 顧客層の性別は、主な販売先が「一般消費者」と回答した企業について尋ねたもの。  
2 顧客層の性別が「わからない」と回答した企業は除く。

表－1 業種（開業者の性別）

	女性 (n=401)	男性 (n=2,610)
建設業	1.5	11.9
製造業	2.5	5.1
情報通信業	1.2	4.1
運輸業	1.2	3.4
卸売業	6.0	7.5
小売業	12.0	11.6
飲食店、宿泊業	15.0	11.1
医療、福祉	19.2	13.0
教育、学習支援業	3.7	2.7
個人向けサービス業	25.2	10.9
事業所向けサービス業	9.2	11.6
不動産業	2.5	5.1
その他	0.7	1.8
合計	100.0	100.0

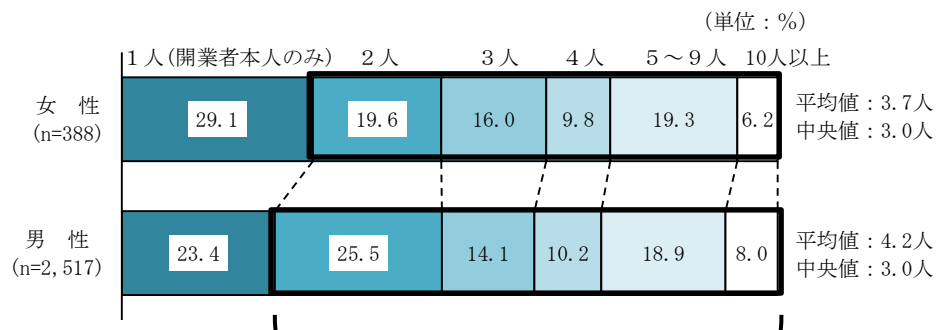
(注) 男女を比較して高かった項目に網掛けをし、なかでも男女の差が大きい3項目に濃い網掛けをした（以下同じ）。

～女性起業家のほうが女性の雇用割合は高い～

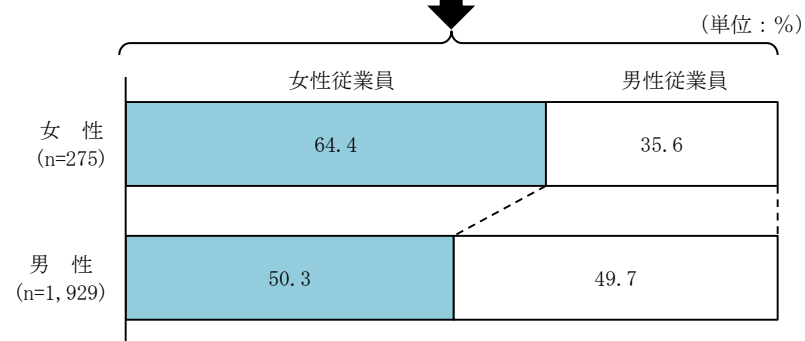
- 開業時の従業者数をみると、女性起業家では平均3.7人で、男性起業家（同4.2人）よりも少ない（図－3（1）。「1人（開業者本人のみ）」で開業する人の割合も29.1%と男性（23.4%）を上回っている。
- 調査時点（平均業歴27.9カ月）の従業者数をみると、女性起業家では平均6.0人、男性起業家では平均6.8人と、いずれも開業時よりも増加している（図－3（2））。ただし、「1人（開業者本人のみ）」とする女性起業家の割合は24.7%で、依然として4分の1を占めている。
- 従業員のうち女性が占める割合をみると、女性起業家が開業時（64.4%）、調査時点（61.8%）ともに男性起業家を10ポイント以上上回っている。

図－3 従業者数の分布（開業者の性別）

(1) 開業時

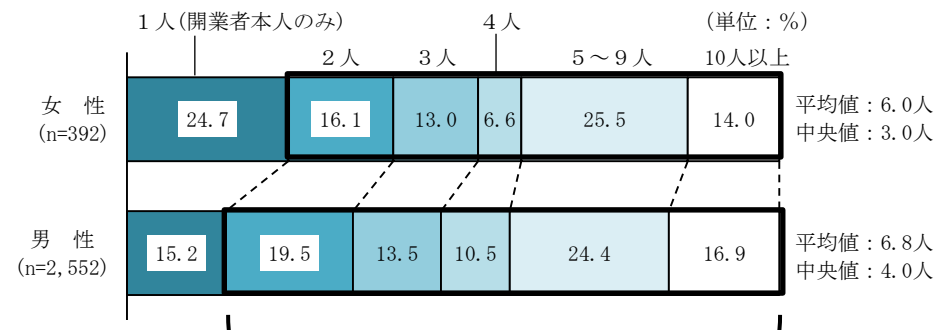


<従業員の性別構成>

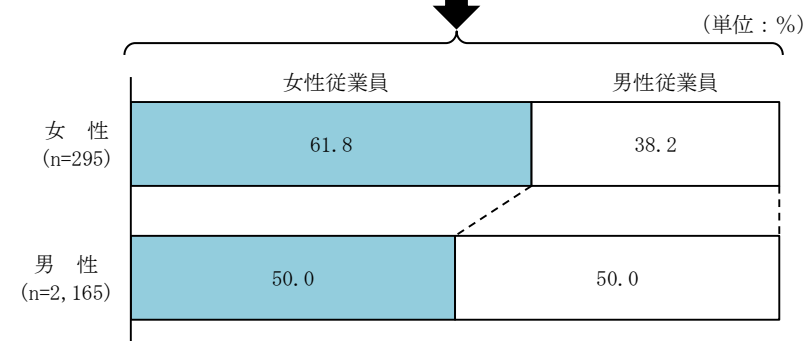


(注) 従業員に経営者は含まない。

(2) 調査時点



<従業員の性別構成>



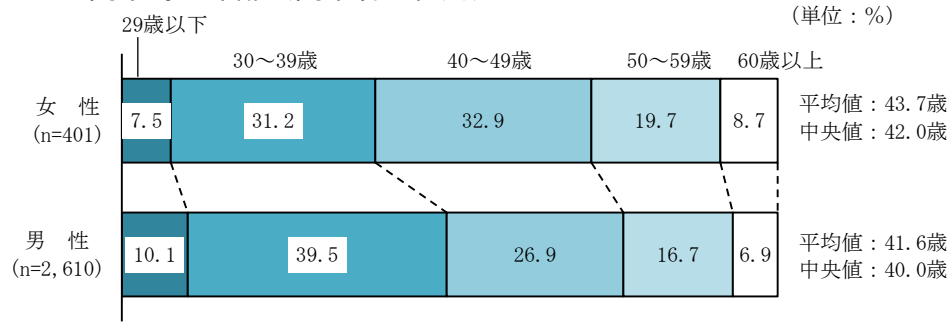
(注) 調査時点の平均業歴は27.9カ月。

## 2 開業者のプロフィール

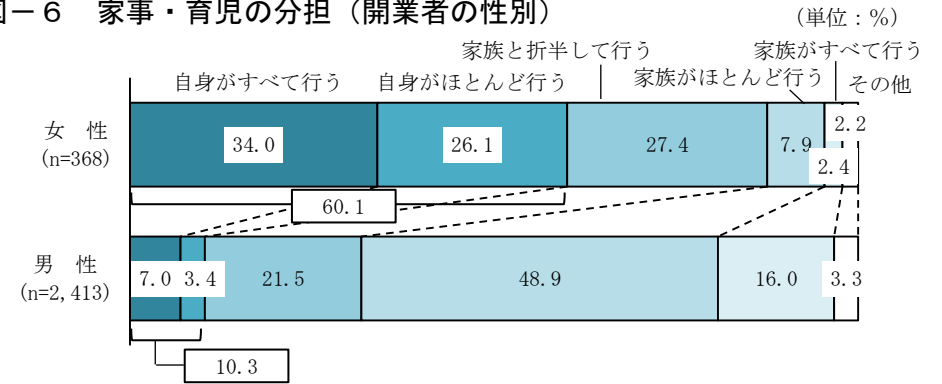
～家事・育児を主体的に行っている割合は、女性6割、男性1割～

- 女性起業家の開業時の年齢は平均43.7歳と、男性起業家（同41.6歳）よりも高い（図－4）。
- 家族構成をみると、女性起業家では「配偶者あり」（52.5%）や「小学生以下の子どもあり」（23.1%）の割合が男性起業家よりも低い（図－5）。「中学生から大学院生までの子どもあり」（22.9%）や「要介護者あり」（6.8%）の割合は、男性起業家と大きく変わらない。
- 家事・育児の分担をみると、女性起業家は「自身がすべて行う」が34.0%、「自身がほとんど行う」が26.1%を占め、合わせて6割以上が主体となっていることがわかる（図－6）。一方、自身が主体となって家事・育児を行っている男性起業家は、1割程度にとどまる。
- 結果として、家事・育児・介護について、女性起業家の11.2%が「大変負担になっている」、39.6%が「多少負担になっている」と感じている（図－7）。これらの割合は、男性起業家を上回っている。

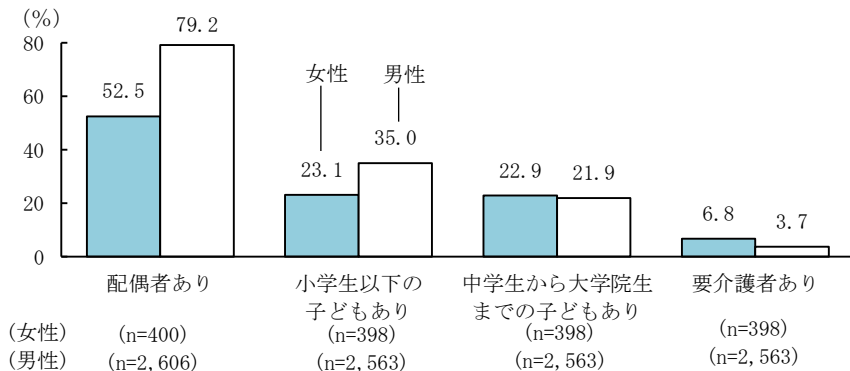
図－4 開業時の年齢（開業者の性別）



図－6 家事・育児の分担（開業者の性別）

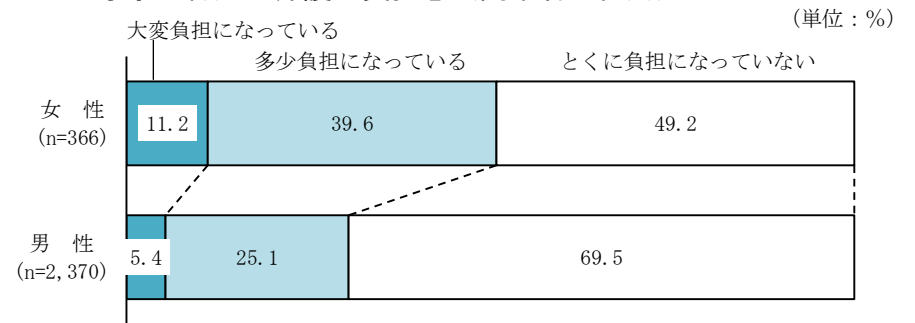


図－5 家族構成（開業者の性別）



(注) 開業者と生計を同一にする家族について尋ねたもの。

図－7 家事・育児・介護の負担感（開業者の性別）

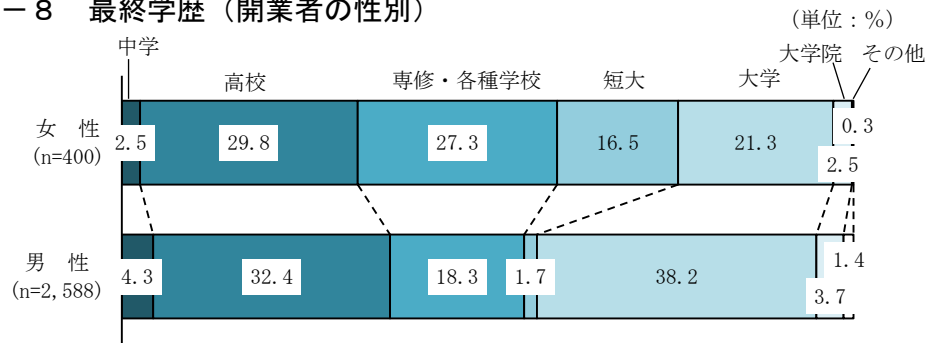


(注) 家事・育児・介護を行うことが事業を運営するうえで負担になっているかを尋ねたもの。

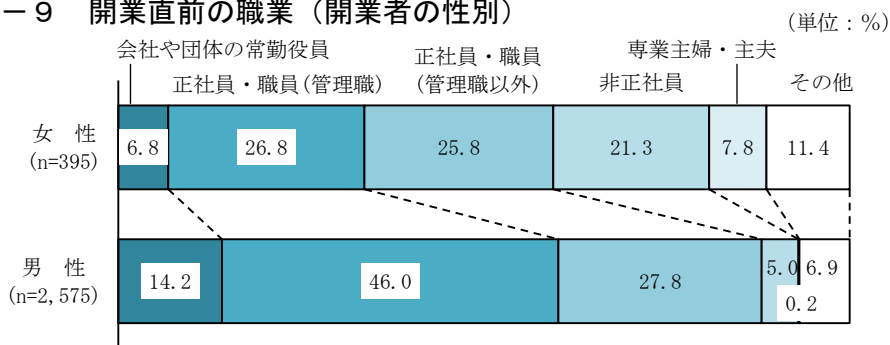
～男性起業家に比べて斯業経験や管理職経験が少なく、キャリアの中断経験は多い～

- 女性起業家の最終学歴は、「高校」が29.8%と最も多い（図－8）。男性起業家と比べると「専修・各種学校」（27.3%）や「短大」（16.5%）が多く、「大学」（21.3%）が少ない。
- 女性起業家の開業直前の職業をみると、男性起業家に比べて「非正社員」（21.3%）や「専業主婦・主夫」（7.8%）の割合が高く、「正社員・職員（管理職）」（26.8%）の割合が低い（図－9）。
- 女性起業家の勤務キャリアをみると、「勤務経験あり」の割合は97.5%で男性起業家（99.3%）とほとんど変わらないものの、「斯業経験（現在の事業に関連する仕事をした経験）あり」（73.9%）や「管理職経験あり」（48.6%）の割合は男性起業家を下回っている（図－10）。また、49.4%と半数近くがキャリアの中断を経験している。

図－8 最終学歴（開業者の性別）

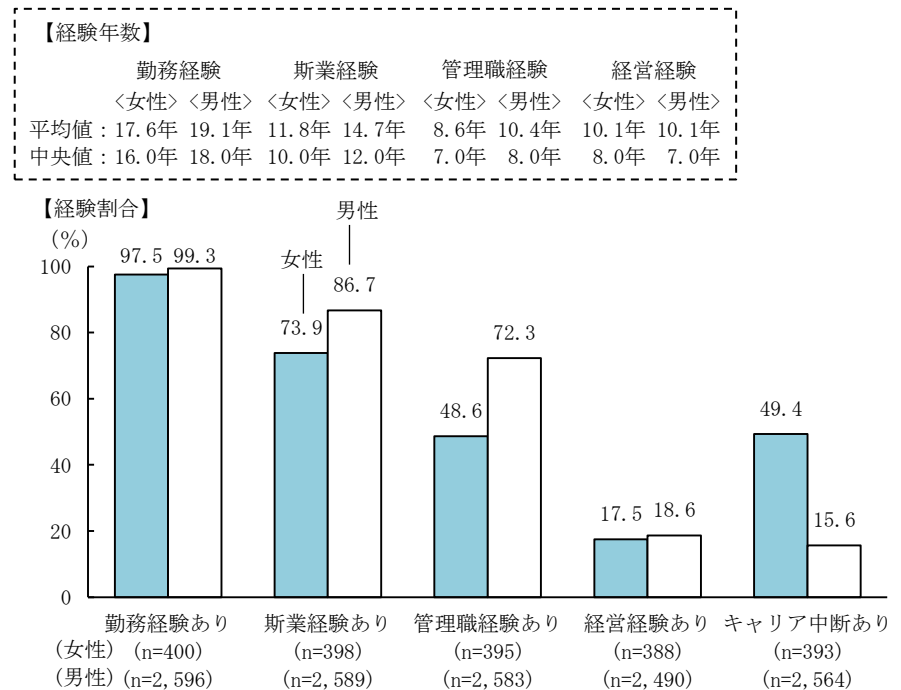


図－9 開業直前の職業（開業者の性別）



（注）「非正社員」は「パートタイマー・アルバイト」「派遣社員・契約社員」である。「その他」は「自営業主」「家族従業員」「学生」を含む。

図－10 勤務キャリア（開業者の性別）



- 1 経験年数は、経験を有する回答者について集計した。
- 2 斯業経験は、現在の事業に関連する仕事をした経験。
- 3 「経営経験あり」には、すでにその事業をやめている者を含む。
- 4 キャリア中断とは、学校を卒業してから現在の事業を始めるまでの間に、1年以上仕事に就かないことと定義した。

### 3 開業のプロセス

～収入が開業動機である割合は、男性起業家よりも少ない～

- 女性起業家の開業動機をみると、上位の3項目は、「自由に仕事をしたかった」(47.6%)、「仕事の経験・知識や資格を生かしたかった」(44.8%)、「収入を増やしたかった」(38.5%)となった(表-2)。この傾向は男性起業家も同じである。また、「自分の技術やアイデアを事業化したかった」(31.4%)、「年齢や性別に関係なく仕事をしたかった」(30.1%)、「社会の役に立つ仕事をしたかった」(28.4%)、「時間や気持ちにゆとりが欲しかった」(17.0%)、「趣味や特技を生かしたかった」(12.4%)が、男性起業家よりも多い。
- 女性起業家の収入に対する考え方をみると、男性起業家に比べて「家計を維持できるだけの収入があれば十分だ」(51.0%)が多く、「できるだけ多くの収入を得たい」(41.5%)が少ない(図-11)。
- 開業時に「仕事のやりがい」を最も重視したと答えた割合は、女性起業家(70.3%)のほうが男性起業家(66.0%)よりも高い(図-12)。

表-2 開業動機(三つまでの複数回答、開業者の性別)

	(単位:%)	
	女性 (n=395)	男性 (n=2,575)
自由に仕事をしたかった	47.6	54.5
仕事の経験・知識や資格を生かしたかった	44.8	48.5
収入を増やしたかった	38.5	50.0
自分の技術やアイデアを事業化したかった	31.4	30.4
年齢や性別に関係なく仕事をしたかった	30.1	11.3
社会の役に立つ仕事をしたかった	28.4	26.0
事業経営という仕事に興味があった	20.3	37.5
時間や気持ちにゆとりが欲しかった	17.0	14.3
趣味や特技を生かしたかった	12.4	5.6
適当な勤め先がなかった	8.4	8.7
その他	2.0	1.1

図-11 収入に対する考え方(開業者の性別)

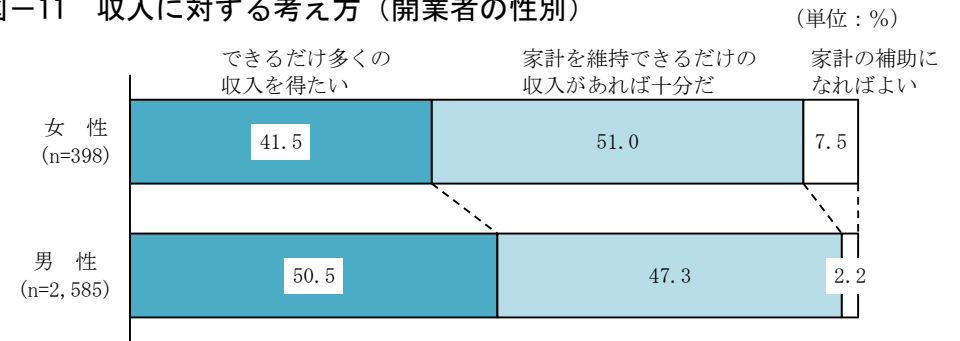
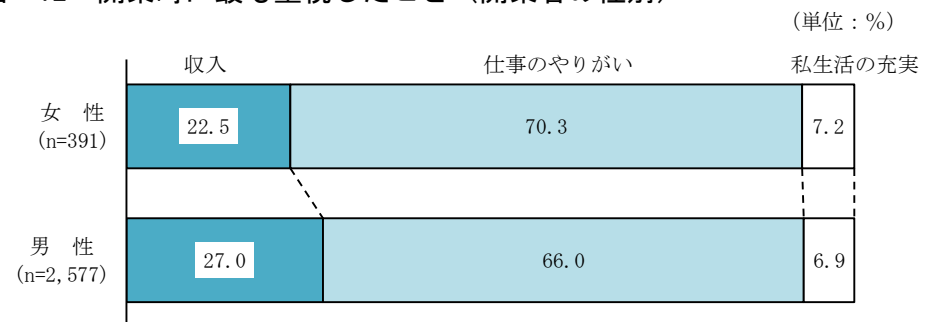


図-12 開業時に最も重視したこと(開業者の性別)



～開業費用は男性起業家よりも131万円少ない～

- 女性起業家の開業費用は平均983万円で、男性起業家（同1,114万円）よりも131万円少ない（図-13）。「500万円未満」の割合も48.2%と男性の42.4%を上回っており、相対的に少額で開業していることがわかる。
- 女性起業家の資金調達額は平均1,081万円で、開業費用と同様に男性起業家（同1,234万円）を下回った（図-14）。「自己資金」（同270万円）や「金融機関等からの借入」（同618万円）が男性よりも少なかったためである。
- 開業までにかかった期間は、女性起業家のほうが短い（図-15）。検討期間は男性の平均30.4カ月に対して女性は同23.5カ月、準備期間は男性の平均8.3カ月に対して女性は同7.9カ月となっている。

図-13 開業費用（開業者の性別）

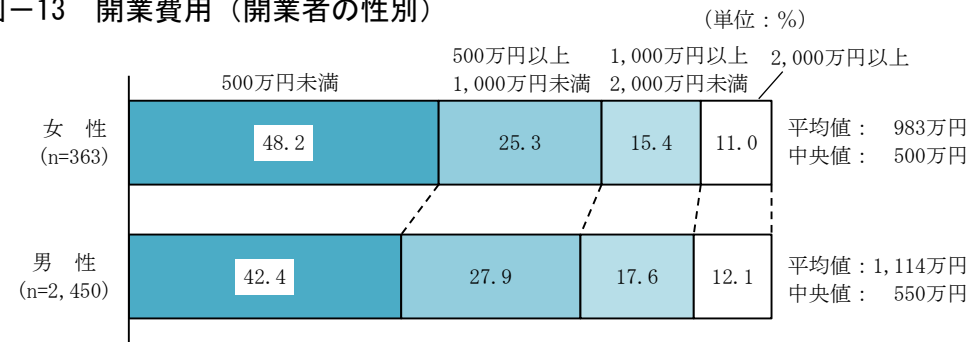
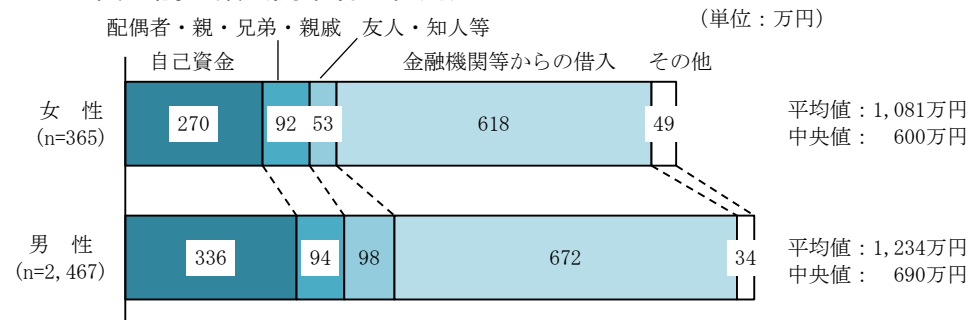


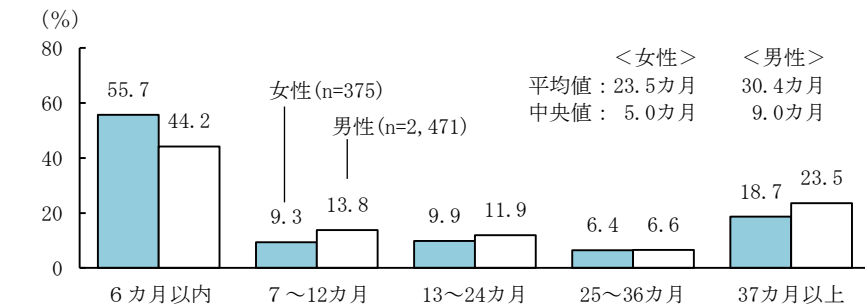
図-14 資金調達額（開業者の性別）



- (注) 1 「配偶者・親・兄弟・親戚」と「友人・知人等」は借入、出資の両方を含む。  
2 「友人・知人等」には事業に賛同してくれた個人・法人、自社の役員・従業員を含む。  
3 「金融機関等からの借入」には日本政策金融公庫、民間金融機関、地方自治体(制度融資)、公庫・地方自治体以外の公的機関を含む。

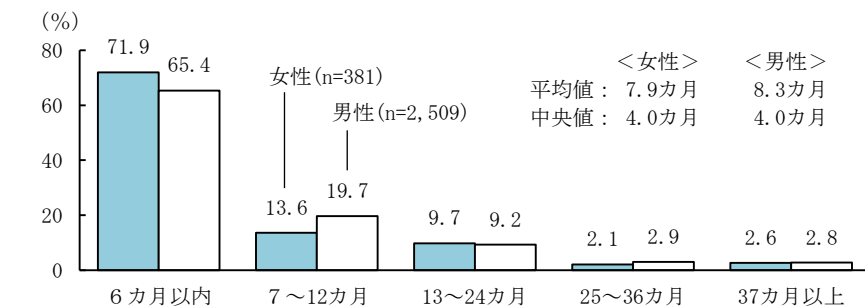
図-15 開業までにかかった期間（開業者の性別）

(1) 検討期間



(注) 検討期間とは、漠然と開業を考え始めてから具体的な準備を始めるまでの期間。

(2) 準備期間



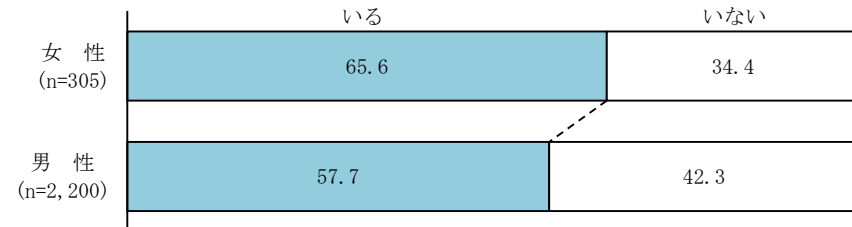
(注) 準備期間とは、具体的な準備を始めてから事業を開始するまでの期間。



#### 4 経営スタイルと開業後の業績 ～女性起業家は、従業員の「仕事と家庭の両立」を重視～

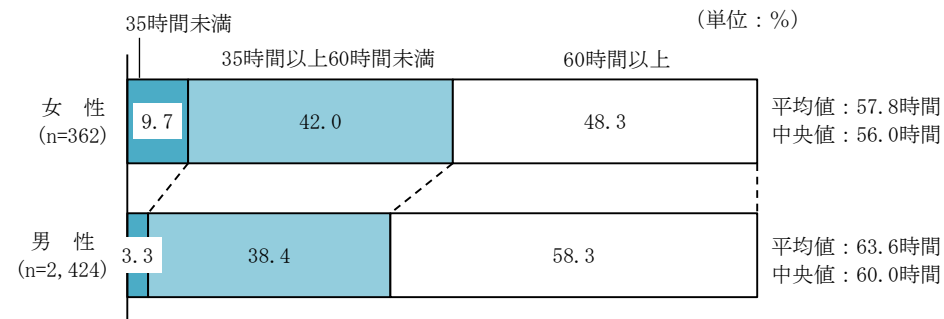
- 経営上のパートナー（経営者の右腕）がいる人の割合は、女性起業家では65.6%と男性起業家の57.7%を上回っている（図－16）。
- 女性起業家の1週間の就業時間は平均57.8時間と、男性起業家の同63.6時間よりも短い（図－17）。内訳をみても、「60時間以上」が48.3%と男性（58.3%）を下回る一方で、「35時間未満」は9.7%と男性（3.3%）を上回っている。
- 従業員の働きやすさを高める取り組みを行っているかを尋ねたところ、「仕事の成果や能力に応じた賃金の提示」が女性起業家（44.7%）、男性起業家（51.7%）ともに最も多かった（表－3）。それ以外の取り組みをみると、女性は男性に比べて「柔軟な労働時間の設定」（44.1%）や「休暇を取得しやすい雰囲気づくり」（41.6%）、「社内での意見交換の場の設定」（41.0%）などを多く挙げており、仕事と家庭の両立やコミュニケーションの促進に力を入れていることがうかがえる。

図－16 経営上のパートナーの有無（開業者の性別）（単位：%）



- (注) 1 従業員を雇用している人に尋ねたもの。  
2 経営上のパートナーとは、従業員のうち、企業としての意思決定の際に相談するような経営者の右腕に相当する人、または欠けると経営が成り立たなくなるような存在の人のこと。

図－17 1週間の就業時間（開業者の性別）



- (注) 開業者自身が現在の事業に従事している時間を尋ねたもの。

表－3 働きやすさを高める取り組み（複数回答、開業者の性別）

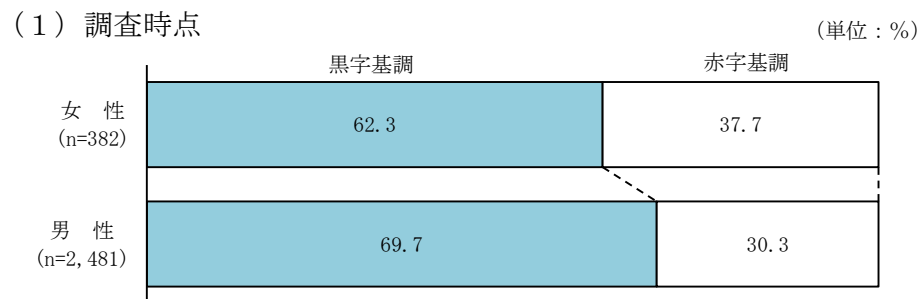
	女性 (n=161)	男性 (n=1,301)
仕事の成果や能力に応じた賃金の提示	44.7	51.7
柔軟な労働時間の設定	44.1	39.9
休暇を取得しやすい雰囲気づくり	41.6	30.2
社内での意見交換の場の設定	41.0	38.2
資格取得の支援	21.7	20.8
仕事に関する権限委譲の促進	18.6	25.1
同業他社より高い賃金の提示	16.1	20.7
法定外の福利厚生充実	9.3	8.5
在宅勤務制度の導入	3.1	3.0
その他	0.6	1.1
とくにない	3.7	6.5

- (注) 常勤役員・正社員(家族従業員を除く)を雇用している企業に尋ねたもの。

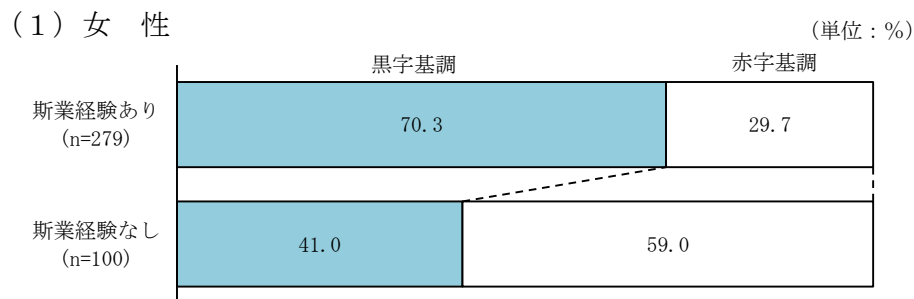
～女性起業家の黒字基調割合、開業後4年で男性起業家を上回る～

- 採算状況をみると、「黒字基調」の割合は女性起業家が62.3%で、男性起業家の69.7%を下回っている（図－18(1)）。ただし、これを時点別に分けてみると、開業当初は女性が男性を下回っているものの、時間の経過に伴いその差は縮まり、開業後48カ月経過時点からは女性が男性を上回る（図－18(2)）。
- また、女性起業家の採算状況を起業経験の有無別にみると、「黒字基調」の割合は起業経験のある人では70.3%に上るのに対し、起業経験のない人では41.0%と半数を切っている（図－19(1)）。男性起業家も同様に起業経験のない人のほうが起業経験のある人よりも「黒字基調」の割合は低いものの、その水準は起業経験のない人でも58.9%と半数を超えている（図－19(2)）。

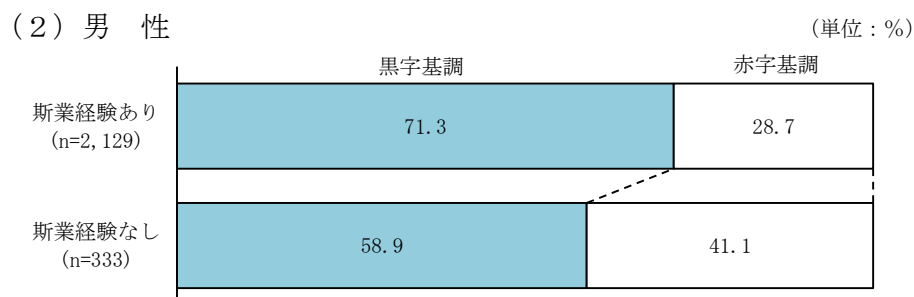
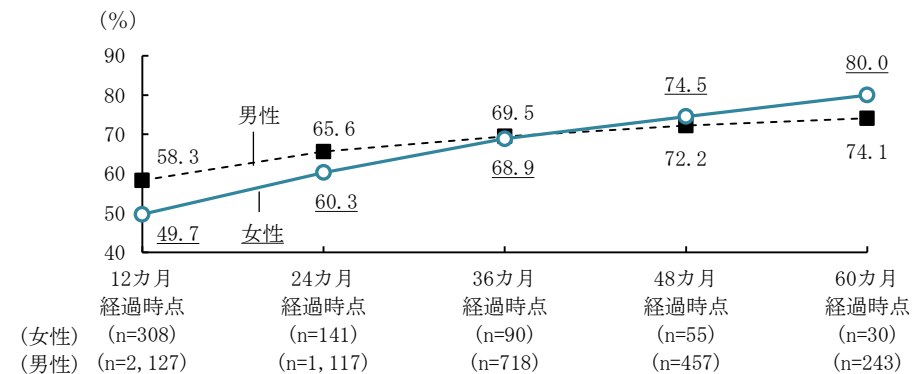
図－18 採算状況（開業者の性別）



図－19 採算状況（起業経験の有無別）



(2) 時点別にみた黒字基調の割合

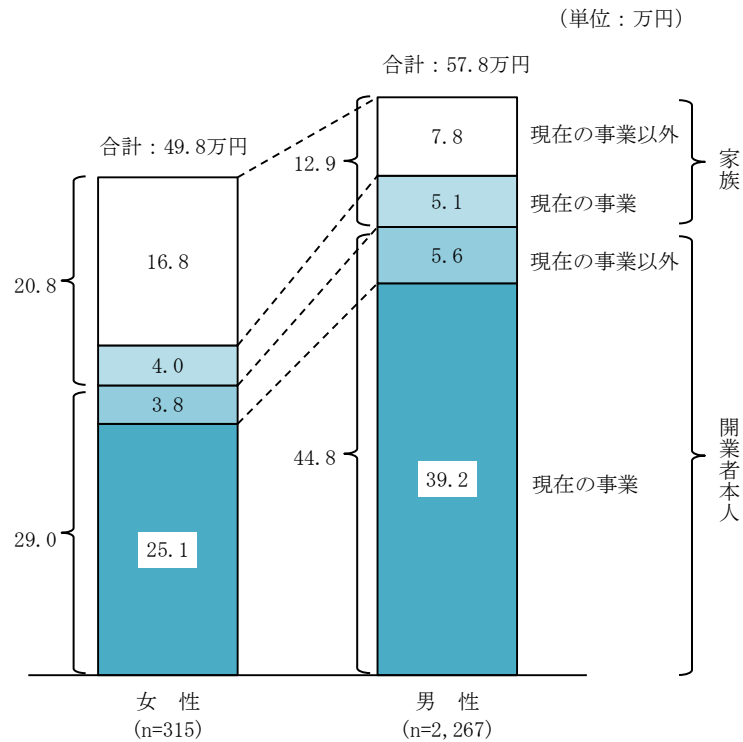


(注) 1 調査時点は、開業後平均27.9カ月。  
 2 時点別採算状況は、黒字基調になった時期から算出。12カ月経過時点であれば、業歴12カ月以上の企業のうち、開業後12カ月の時点で黒字基調だった企業の割合。

～月収は男性起業家よりも約15万円少ない～

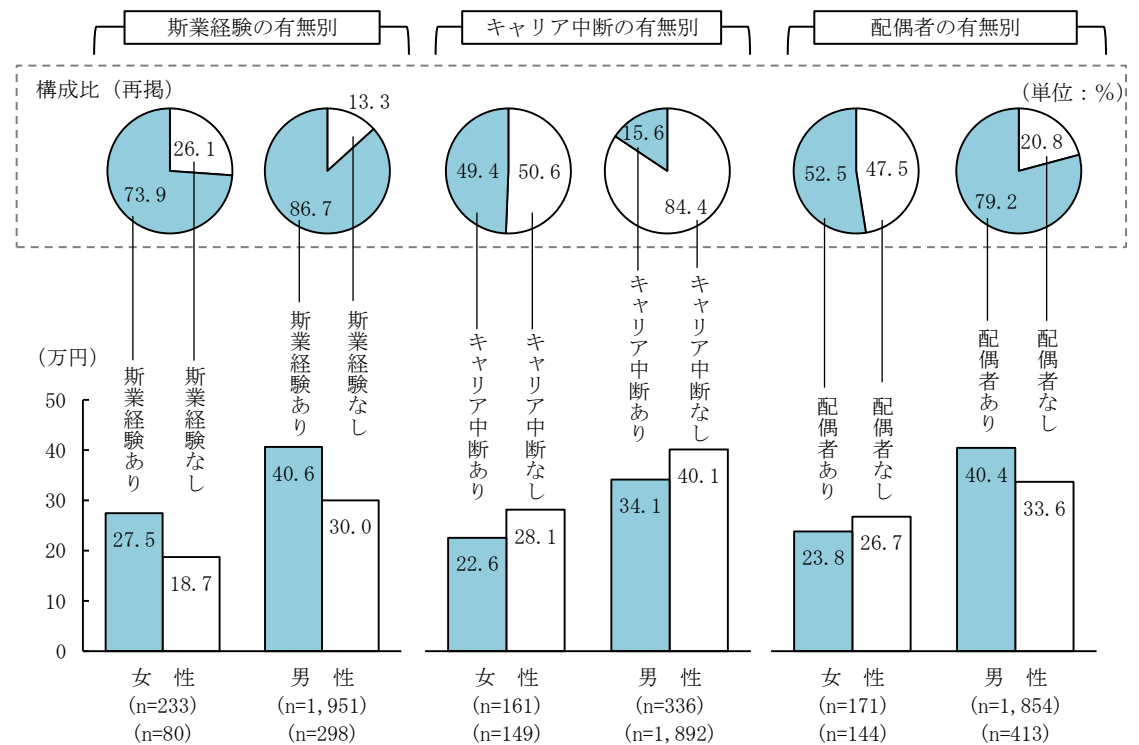
- 開業者本人の収入について尋ねたところ、女性起業家では月平均29.0万円（現在の事業から25.1万円、それ以外から3.8万円）と、男性起業家の同44.8万円（現在の事業から39.2万円、それ以外から5.6万円）を15万円ほど下回った（図-20）。だが、家族を加えた家計の収入では、女性が月平均49.8万円、男性が同57.8万円で、その差は8万円ほどに縮小する。
- 属性別に起業家本人の収入（現在の事業から受け取る収入）をみると、斯業経験が収入を押し上げ、キャリア中断が収入を押し下げる傾向に男女の違いはない（図-21）。しかし、配偶者がいる人の収入は男性では高く、女性では低くなっており、男女で反対の結果となっている。

図-20 家計の収入（開業者の性別）



- (注) 1 賞与を含めた月平均の手取り額。  
 2 家族は、開業者と生計を同一にする人。  
 3 現在の事業は、本調査の対象となっている事業。

図-21 属性別にみた開業者本人の収入（開業者の性別）

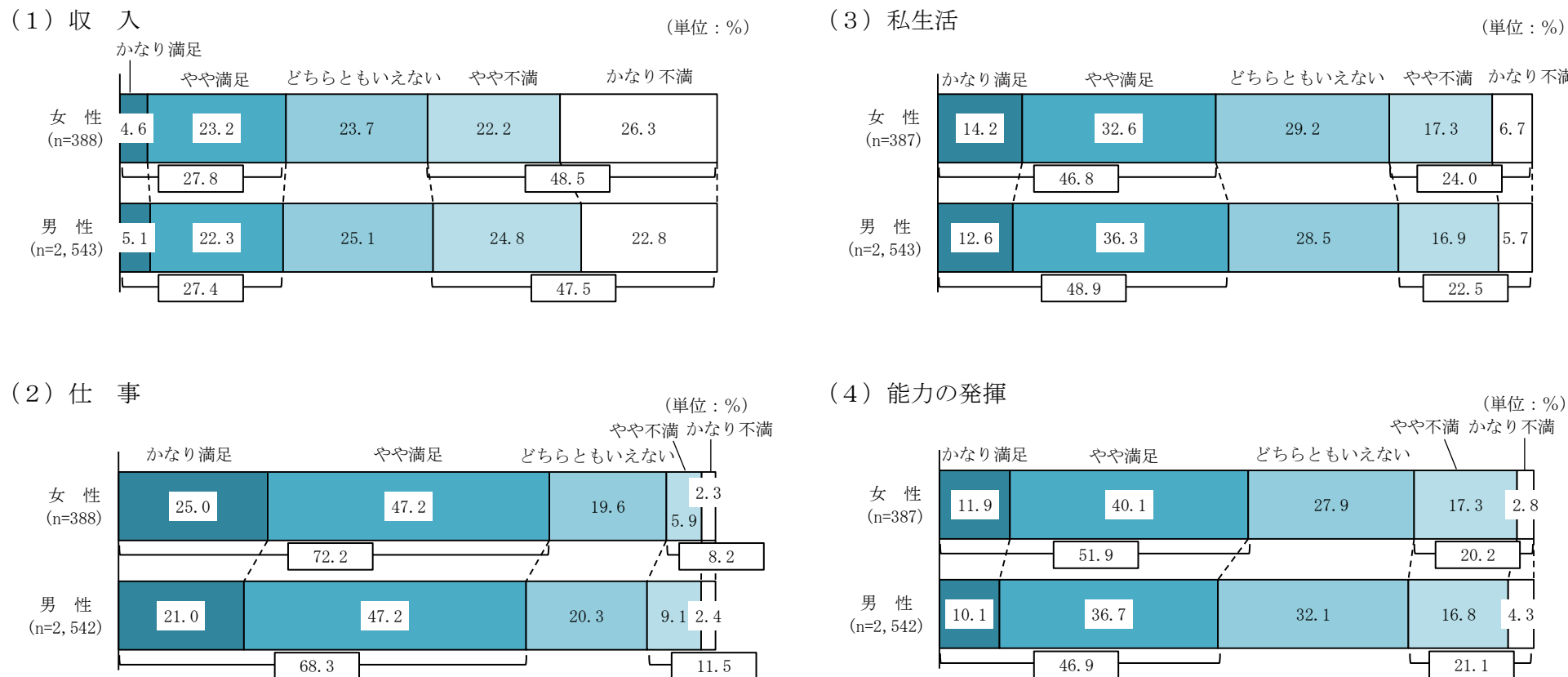


- (注) 1 現在の事業から受け取る月平均の手取り額。  
 2 n値はそれぞれ、上段が「ス業経験あり」「キャリア中断あり」「配偶者あり」、下段が「ス業経験なし」「キャリア中断なし」「配偶者なし」。

～仕事、私生活、能力の発揮について、「満足」が「不満」を上回る～

- 現在の収入に対して「満足」と答えた割合（「かなり満足」と「やや満足」の合計）は、女性起業家が27.8%、男性起業家が27.4%で、水準に男女の違いはみられない（図-22(1)）。また、男女ともに、「満足」と答えた割合が「不満」と答えた割合（「かなり不満」と「やや不満」の合計）を下回った。
- 女性起業家について収入以外の満足度をみると、仕事に対して「満足」と答えた割合は72.2%、私生活に対して「満足」と答えた割合は46.8%、能力の発揮について「満足」と答えた割合は51.9%で、いずれも「不満」と答えた割合を大きく上回っている（図-22(2)～(4)）。また、仕事と能力の発揮については、「満足」と答えた割合が男性起業家よりもわずかに高くなっている。

図-22 現在の満足度（開業者の性別）



## 5 課題と支援策

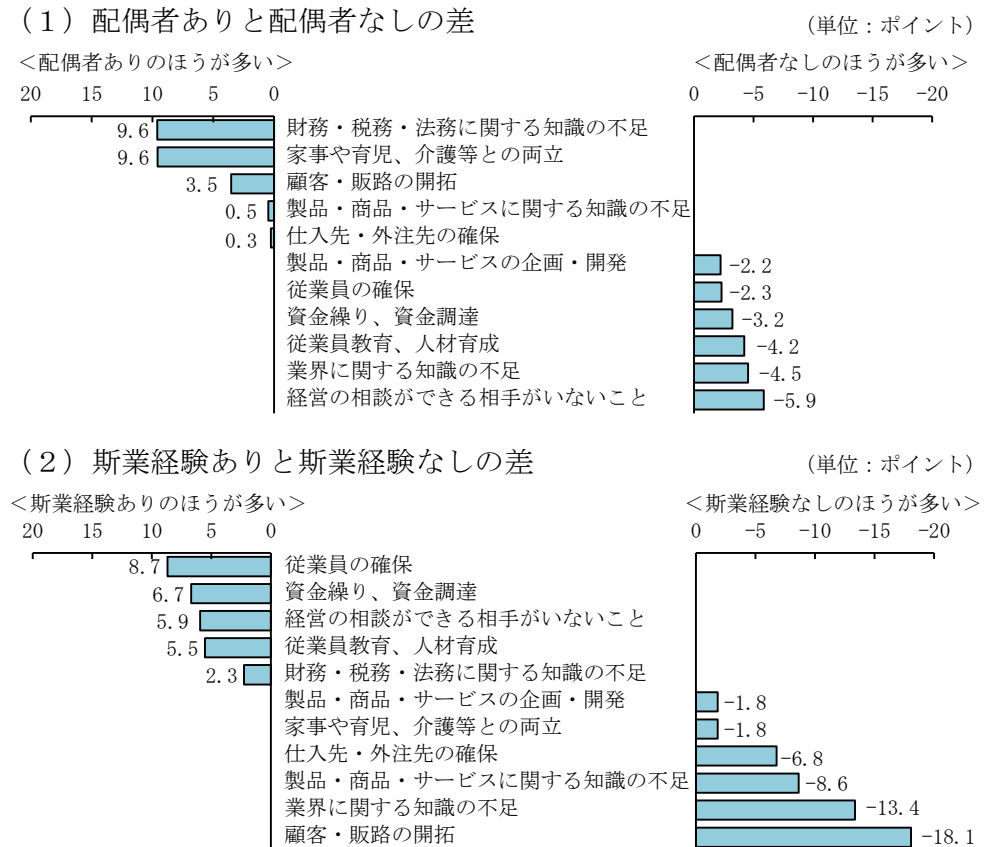
～家事や育児との両立、相談相手の不足に苦労した人の割合が男性起業家よりも高い～

- 女性起業家が開業後に苦労したことをみると、「顧客・販路の開拓」が44.0%と最も多く、「資金繰り、資金調達」(37.9%)、「財務・税務・法務に関する知識の不足」(23.5%)と続く(表-4)。また、女性起業家が男性起業家を上回ったのが、「家事や育児、介護等との両立」「経営の相談ができる相手がいないこと」「業界に関する知識の不足」などであった。
- 女性起業家をさらに配偶者の有無で分けて比較すると、配偶者がいる人は「財務・税務・法務に関する知識の不足」や「家事や育児、介護等との両立」などを、配偶者がいない人は「経営の相談ができる相手がいないこと」や「業界に関する知識の不足」などを多く挙げる傾向にある(図-23(1))。また、起業経験の有無で分けてみると、起業経験のある人は「従業員の確保」や「資金繰り、資金調達」などを、起業経験のない人は「顧客・販路の開拓」や「業界に関する知識の不足」などを多く挙げる傾向にある(図-23(2))。

表-4 開業後に苦労したこと(三つまでの複数回答、開業者の性別)

	女性 (n=391)	配偶者				男性 (n=2,530)
		あり		なし		
		あり (n=202)	なし (n=188)	あり (n=287)	なし (n=101)	
顧客・販路の開拓	44.0	45.5	42.0	39.4	57.4	43.9
資金繰り、資金調達	37.9	36.1	39.4	39.4	32.7	47.7
財務・税務・法務に関する知識の不足	23.5	28.2	18.6	24.0	21.8	28.5
従業員の確保	18.2	16.8	19.1	20.6	11.9	20.9
経営の相談ができる相手がいないこと	17.1	14.4	20.2	18.8	12.9	9.1
従業員教育、人材育成	15.9	13.9	18.1	17.4	11.9	17.9
業界に関する知識の不足	13.0	10.9	15.4	9.4	22.8	8.5
仕入先・外注先の確保	10.7	10.9	10.6	9.1	15.8	17.6
家事や育児、介護等との両立	9.7	14.4	4.8	9.1	10.9	3.6
製品・商品・サービスの企画・開発	9.5	8.4	10.6	9.1	10.9	9.2
製品・商品・サービスに関する知識の不足	7.7	7.9	7.4	5.2	13.9	6.0
その他	1.5	3.0	0.0	1.7	1.0	0.6
とくにない	6.9	5.4	8.5	8.7	2.0	5.9

図-23 開業後に苦労したことの属性による差(女性)



(注) 「その他」「とくにない」は記載を省略した。

～先輩起業家や専門家による助言、保育施設や家事・介護等の支援を挙げる割合が男性起業家よりも高い～

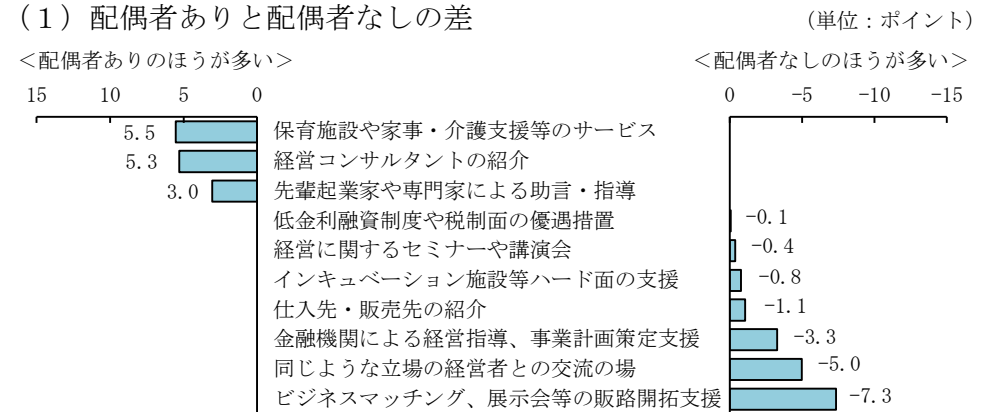
- 女性起業家が開業時にあったらよかったと思った支援策を尋ねたところ、「低金利融資制度や税制面の優遇措置」が39.3%と最も多く、「金融機関による経営指導、事業計画策定支援」(18.0%)、「同じような立場の経営者との交流の場」(16.8%)が続く(表-5)。また、女性起業家が男性起業家を上回ったのが、「先輩起業家や専門家による助言・指導」「保育施設や家事・介護支援等のサービス」などであった。
- 女性起業家をさらに配偶者の有無で分けて比較すると、配偶者がいる人は「保育施設や家事・介護支援等のサービス」や「経営コンサルタントの紹介」などを、配偶者がいない人は「ビジネスマッチング、展示会等の販路開拓支援」や「同じような立場の経営者との交流の場」などを多く挙げる傾向にある(図-24(1))。また、斯業経験の有無で分けると、斯業経験のある人は「経営に関するセミナーや講演会」などを、斯業経験のない人は「仕入先・販売先の紹介」や「経営コンサルタントの紹介」などを多く挙げる傾向にある(図-24(2))。

表-5 開業時にあったらよかったと思う支援策(三つまでの複数回答、開業者の性別)

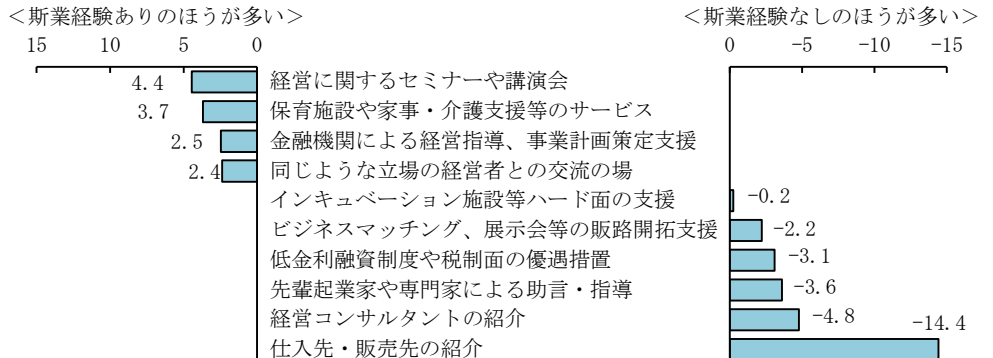
	女性 (n=328)	配偶者				男性 (n=2,148)
		あり		なし		
		あり (n=170)	なし (n=157)	あり (n=240)	なし (n=86)	
低金利融資制度や税制面の優遇措置	39.3	39.4	39.5	38.8	41.9	41.7
金融機関による経営指導、事業計画策定支援	18.0	16.5	19.7	18.8	16.3	17.9
同じような立場の経営者との交流の場	16.8	14.1	19.1	17.5	15.1	21.2
先輩起業家や専門家による助言・指導	15.9	17.1	14.0	15.0	18.6	13.4
仕入先・販売先の紹介	13.7	12.9	14.0	10.0	24.4	20.7
経営に関するセミナーや講演会	12.5	12.4	12.7	13.8	9.3	12.0
経営コンサルタントの紹介	10.4	12.9	7.6	9.2	14.0	9.5
ビジネスマッチング、展示会等の販路開拓支援	7.6	4.1	11.5	7.1	9.3	8.8
保育施設や家事・介護支援等のサービス	7.3	10.0	4.5	8.3	4.7	3.2
インキュベーション施設等ハード面の支援	2.1	1.8	2.5	2.1	2.3	4.4
その他	0.3	0.6	0.0	0.0	1.2	0.4
とくにない	23.8	25.3	22.3	25.4	17.4	24.6

(単位: %)

図-24 開業時にあったらよかったと思う支援策の属性による差(女性)



(2) 斯業経験ありと斯業経験なしの差 (単位: ポイント)



(注) 「その他」「とくにない」は記載を省略した。

### Ⅲ まとめ

#### 1 女性の起業は、女性消費者のニーズや女性雇用の受け皿となっている

女性起業家は、一般消費者、とりわけ女性を主な顧客とした事業を選ぶ傾向にある。また、女性を多く雇用し、従業員の「仕事と家庭の両立」に配慮した取り組みを行っている割合が高い。

#### 2 課題は家事・育児負担の重さと勤務キャリアの少なさ

女性起業家は、男性起業家比べて家事・育児の負担が大きい。また、起業経験や管理職経験が少なく、約5割がキャリアの中断を経験するなど、勤務キャリアは男性に比べて乏しい。その結果、家事や育児との両立や相談相手の不足を課題に挙げる割合が、男性起業家比べて高い。

#### 3 少額、短期間での開業も、4年後の黒字割合は男性起業家を上回る

女性起業家は、男性起業家比べて少額、短期間で開業している。黒字基調の割合は、女性起業家のほうが男性よりも低い。ただし、時点別に分けてみると、開業当初は男性を下回る水準だが、開業後4年で男性を逆転している。

#### 4 男性起業家比べて収入は少ないものの、仕事のやりがいや能力の発揮については満足

女性起業家は、男性起業家比べて収入が少ない。しかし、収入に関する満足度は男性とほとんど変わらないことに加え、仕事のやりがいや能力の発揮についての満足度は男性を上回っている。